

佐々木小教育目標 ◎自分で深く考える子◎思いやりをもって助け合う子◎がんばってやりとげる子



# 佐々木小

第 9 号  
令和5年2月15日  
佐々木小学校  
新発田市則清856  
Tel. 0254-27-2011

## 進んで〇〇する子～認めて、褒めて、一緒に喜んで～

校長 齋藤 博敏

- 目標をもって取り組むことを通して、粘り強さを養ったり、できる喜びを体感させたりして、運動に親しむ心を育てる。
- 冬期の体力づくりを図るとともに身体調整能力の向上を図る。

上記の二つをねらいに、1月13日（金）から1月30日（月）の期間、チャレンジなわとびタイム（2時間目と3時間目の間の中休み）を実施しました。事前に種目（低学年は3種目、中・高学年は4種目）を決め、1分間で何回跳べたか自己記録に挑戦しました（一人3セット）。なわとびが得意な子はもちろんですが、苦手な子も何度もつかえながらも、必死に取り組む姿が見られました。



期間中、いつものように3時間目に校内を回っていると、ある教室で女の子が微笑みながら、私を手招きしていました。いつもは授業の邪魔にならないようできるだけ応えないようにしているのですが、このときは、近寄って話を聞きました。そうしたら、その子が「ねえねえ校長先生、二重跳び90回跳べたよ」と、とびきりの笑顔で話してくれました。私は、その子の頭をなでながら、聞いてあげてよかったと思いました。他にも、休み時間に体育館に行くと、「交差跳びができるようになったよ。見て見て」「後ろあや跳びが連続で〇〇回跳べたよ」とさかんに声を掛けてきます。子どもたちは自分の頑張りを認めてもらいたいのです。褒めてもらいたいのです。

今年度の当校の体育部の目指す子どもの姿は、「運動に親しみ、進んで運動する子」です。その姿に迫るためには、「一人一人の頑張りを認めてあげること。褒めてあげること。目標達成を一緒になって喜んであげること」が必要不可欠だと考えます。その積み重ねが、子どもたちの次の活動への意欲、やる気につながっていくのだと考えます。

ただし、いい加減な認め方、褒め方、喜び方を続けていると、そのうち、子どもは見透かしてしまいます。認めるとき、褒めるとき、喜ぶときは、“機会を逃さずその場で 具体的に”が何より大切です。

